

SHATE-TAMA
結城 麻呂 隊



FOR ADULT ONLY

R-18



1/4 ♀
¥200

Fuck Me →



——女性クルーから
男とデートさえしたくない
ことを驚かれたシャタタは……

「あんたみたいな
エロ目的みえみえの
オッサンは
お呼びじゃないの！」

プライベートビーチで
デートに誘ってくる男を
待っていた——

「もうっ…アサヒのバカが
誘ってくればこんな
事なくても……」

「ねーねー」





「チャライ奴等ね...
まあさっきのエロオヤジよりは
マシかしら...それに...」

「こいつ等と一緒にゴハン
食べれば男とデートした...って
ことになるわよね」

「君、ここ初めて？
俺達この辺地元だからさ
連れがいないなら飯
一緒に食わないい？」
「変な誘いとかじゃ
ないからマジで♪
女の子一人じゃこの辺
危ないからさっ♪
悪い男も多いし」

「いざとなったら
こんな奴等振り払える
自信もあるし...」

「いいわよ
付き合って
あげる」



「ひっ!!...んっ!!」

「へえー
シヤツテちゃんって
ロボット工学の天才って
言われてるんだ♪
頭いいんだわっ」

「でもさあ...
勉強だけじゃなくて
世間のことも
知った方がいいって」

「じゃないと俺達みたいな
悪い男に引つかかっちゃうよ♪」
「こんなエロ水着きてたんだ
…うなることを期待
してたんだろ? なあ?」

「ひくっ!…ふ…ふさけるなっ!!
あ…あんだっ! よくも
あたしの初めてを…くっ!
必ず後悔させてやるわっ!」
「ったく…具合は良いのに
口だけは減らねえ女だな…」

「男にやられる為にあるような
ドスケベボディ見せつけりゃ
こらなるのは当たり前なんだよっ!!」

「ひくっ!ん!!
う…うう…あ…
アサヒい…んっ!!」

「アサヒって誰?
もしかしてシャットちゃんの
彼氏かなあ?…
妬けるね…それじゃあ…」

あざむき
あざむき
あざむき



「ヒーヒー♥」
「あーあ…
無茶するから…」

「えへっ♥えへへ♥」
「ねえ♥♡しちやうら〜い♥」
「壊れちゃったじゃねーか…」
「まあいいか…チンポ狂いでも
…依頼違反じゃねえだろ…」

「さっきまで処女で偉そうなこと
言ってたのによお、このクソビッチが
ホラ、腕も解いてやるから
ねだってみせろよ♪」

「勝手に最低な奴等…
薬を打ってこんなにしたのは
アンタ達なのに…でも…
今は…そんな事より…
「チンポ欲しいのよお!!」
いれてええ!!ビッチマン♡」
アンタ達のデカチンポおお!!」

くばあ

「いれてくださいあ♥♥」

「そこまで言われたら
なっ♥」
「おおおお♥♡ぎだあ♥
いっ♡…ひあっ♡
んごっ♥突がれる度
…ひおおおお♥♡」

「ぐっ♥出し入れ
する度、頭悪くなる
ぐらいキモチいだろ♥」
「いいいつ〜突きて
10〜つ下がるうう♥
頭バカになるうう♥」

「うぐっ♪やべえ…射精るっ!!」
「んぶうらん♥♥」
「おい、生はダメって
言われてんだろ?」

「このピッチ…
マンコの使い方が
上手くなってやがる
さすが天才だねえ♪」
「え…えへへ♥
生で射精…ダメなの
あんごあい♥んへへ♥
薬とガーマンもっ
ちよーらしい♥♥」

「くっっ♪これが天才…ねえ♪
おい!エロ女、薬とチンポが
欲しいなら…この人に
せがむんだな」
「く……っ」

次の日

「……おじさまあ〜♥」

「お?…君は
昨日ワシの誘いを
断った…シャッテ君
だったねえ…」

「何か用かね?
ワシも忙しい身
なんだが?」





「そんなつれないこと
言わないでよお♡」

「おじ様が昨日あたしに
しようとしてたスケベなこと
シャタタのエロボディで
なんんでもするから♡
んへっ♡えへっ♡♡
しっろ♡♡♡♡♡

「お薬がよーいだーい♡♡」

「あの薬を使ったのかい？
それにしてもスゴい変わりようだねえ♡」

……よく言うわね…
あの男達けしかけて薬
使わせたのはアンタだって
言うじゃない！この水着だって…
変態エロオヤジ…！！
……それにしても…
「チンポでかい♡」

「シャタタちゃんのおっぱいもねえ♡
薬は今持っていないがね…アレを
使えばワシの体液を摂取しただけで
同じ効果が得られるんだよ♪」
嘘…そんなことが…

んんん

んんん

「~~~~~」

「どうだ？頭からマンコに快感が駆け巡る…うおっ
……ゲッフ♥」

いゅほ♥

いゅほ♥

いゅほ♥

いゅほ♥

すっごい♥舐めるだけで薬打たれた直後のアフメできちやううん♥

おぼおぼおぼ

ああ♥マジで頭の中トフ♥とぶうううう◇@☆♥♪大事なモノが全部抜けて頭の中チンポチンポチンポお♥♥
「うう！射精すぞ!!」
うひあ♥ザーメンなんて飲んだらああ♥♥♥

「んほっ♥んぶうん♥」

「二舐めでワシのチンポの膚が
あったかもしれんなあ♥」

「おぼおぼおんう♥♥♥♥♥」



「あ……ああ……♡」

「ふう……♡ワシは娼業専門の製薬会社の頭でなあ……打った薬はまあホレ薬みたいなもんだ」

「あつ……んつう♡♡」

「お前の体も良かったぞ……素性も調べあげたてな……」

「このままソレスタル何たらには帰らずワシの嫁になって子供をたくさん産むんだぞ♡」

「なるよなっつ!!」

「スポッ!!」

「ひいぎいん♡♡」

「な……何言ってるの……」

「……確かにエロい事」

「するのはOKしたけど……」

「いくらキモチ良いからって……アンタみたいなオッサンのお嫁さんになんて……」

「グフフ♪ガマン汁でさえこの効果だ……もしザーメンを子宮で受けてアクメしたら……どうなるかわかるなあ?」
「わかるっ!わかるわよっ!!」
「Hがスゴいだけの猿顔変態オヤジに……逆らえなくなる……の……」
「ひいぎいん♡♡」
「ぬひいいん♡♡」
「昨日よりもスゴいアクメえ♡♡」
「パコパコされる度にきちやうのおお♡♡」

「ぐうう!出るぞお!!」
「ああ♡それでも耐えるのよっ!」
「ザーメンアクメなんてしたらきつと今まで積み重ねてきた知識やフライドや……」
「好きだったアイツの事まで全部……とんじやう!」
「耐えて!あたしのオマンコお!!」

REC 半月後

「よく言うわ♪昨日先に気絶した癖になぁ♥」
「あ…アしはアナタがザーメンに加えてオシツ」まで飲ますから！イキ過ぎて死ぬかと思っただんだから♥
……とにかく浮気出来ないように今日もザーメン搾りとるわよお♥んっ♥」

「んほっ♥はぶっ♥」
「んぐっ…♥待てシャッテ今、録画の用意が…」
「そんな事よりあたしとのラブラブベロチユでハメる方がダイジでしょー♥んっ♥んへ♥」

「ククトワシもお前がここまでエロくなるとは思わなかったぞ♥天才の名に恥じないテクを身につけておってホレ、こ褒美だ…」

「んん♥べろちゅう♥
涎でイクワ♥♥んっ♥
んっ♥もつとドスケベになるから覚悟しなさいよ♪旦那さま♥」

「浮気か…本当アサヒ君の事が好きだったんじゃないのか？」
「アサ…ヒ？…誰ぞれ？」
「フフ…これからソレスタルビーイングにこの映像を送ってやろうと思っただが…
快楽で記憶障害が起きておるな
もうワシのチンポのこと以外は頭にないか」
「何いってるかわかんないけど…
今はアナタとドスケベする以外興味ないわよ♥んっ♥」

□奥付□
■発行日 2014.12.30
■誌名 シャタタマ練習帳
■著者 武田弘光
■発行 真珠貝
■印刷 株式会社 緑陽社
■Email pearl_shell@wing.ocn.ne.jp
■HPURL <http://pearlshell.blog56.fc2.com/>